

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)平塚市宮松町計画 新築工事	階数	地上7F
建設地	平塚市宮松町14	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第1種住居地域	平均居住人員	647 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2015年6月12日
敷地面積	6,876 m ²	作成者	株式会社長谷工コーポレーション
建築面積	2,903 m ²	確認日	2015年6月12日
延床面積	14,874 m ²	確認者	株式会社長谷工コーポレーション



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.4</p> <p>S: A: B+: B-: C:</p>	<p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 3.1</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.5</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>道路に沿って豊かな緑道を確保するとともに、アースカラーを基調とした外壁を用い、住宅らしい温かみのある景観の創出に努めた。</p>	<p>その他</p> <p>0</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 住戸の開口部に底(一部)及びカーテンレールを設置し、日射への対応に配慮している。 部材にはF、VOC放出が極めて少ない建材を採用し、環境に配慮している。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 共用部維持管理等級2、劣化対策等級3を取得予定。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平塚市景観計画区域の基準に基づく色彩配置としている。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> エコジョーズ採用により、エネルギーの有効利用を図った。 住戸の開口部は全て2方向以上に面しており、有効な通風と採光が確保されている。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 内装の更新性に配慮し、二重天井、二重壁を採用している。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐輪場200%を確保した上、バイク置場を設置することで周辺の交通負荷軽減に配慮した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される